

国立公園の訪日外国人利用者数の推計結果（中間推計）

資料1

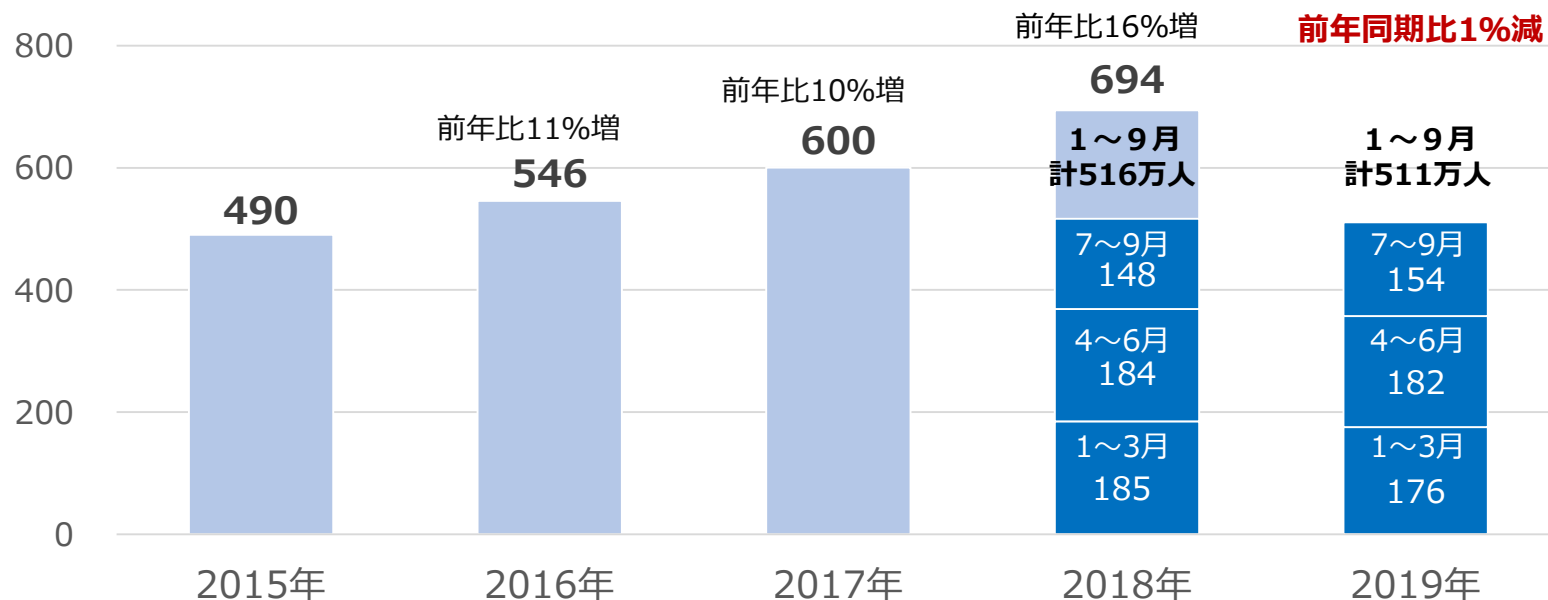
- **2019年1～9月の国立公園の訪日外国人利用者数は511万人と推計。前年同時期と比較して5.3万人減（1.0%減）。**
- 減少数が大きいのは、阿蘇くじゅう国立公園で、最大シェアで約7割*を占める韓国客が減少し、前年同期比15.5万人（20.1%）減。次いで、支笏洞爺国立公園で、最大シェアで約3割*占める台湾客が減少し、前年同期比8.9万人（10.9%）減。
- 増加数が大きいのは、富士箱根伊豆国立公園で前年同期比12.0万人（5.4%）増。次いで、上信越高原国立公園で前年同期比2.9万人（11.3%）増。

* 2018年におけるシェア

【参考】

- 2019年1～9月の訪日外客数は2442万人（前年同期比4.0%増）
- ただし、国立公園の外国人利用者数の約2割*を占める韓国は、全国でも13.4%減である中、国立公園では18.6%減となっており、観光需要の高い地方エリアへの影響が大きく生じた。特に、訪日旅行控えや航空路線の運休・減便等の影響が顕著となった8月以降を含む7～9月の減少が著しい。
- また、国立公園外国人利用者数で最大の中国について、1～3月には、全国で11.6%増にもかかわらず、国立公園利用者数は前年同期比5.4万人（9.9%）減となっている。

単位：万人



※四捨五入による端数処理により、合計値が一致しない場合がある。

国立公園別訪日外国人利用者数推計値 前年同期比 (1-9月)

資料1 (別紙)

期間途中推計により標準誤差率を考慮し、利用者数の多い10公園のみの標記

公園名 年次		推計実利用者数(人) *1				
		2018年1-9月		2019年1-9月		
			標準 誤差率		標準 誤差率	前年比
富士箱根伊豆		2,230,394	2.0%	2,350,583	1.9%	5.4%
支笏洞爺		814,274	3.3%	725,680	3.5%	-10.9%
阿蘇くじゅう		772,691	3.4%	617,298	3.8%	-20.1%
瀬戸内海		491,388	4.3%	493,489	4.3%	0.4%
上信越高原		260,571	6.0%	289,975	5.6%	11.3%
中部山岳		294,127	5.6%	285,603	5.6%	-2.9%
日光		198,276	6.9%	188,642	7.0%	-4.9%
霧島錦江湾		103,275	9.5%	88,840	10.2%	-14.0%
大雪山		40,389	15.3%	58,419	12.6%	44.6%
伊勢志摩		38,891	15.6%	55,845	12.8%	43.6%
合計	(各公園計)	5,598,609	1.1%	5,505,465	1.1%	-1.7%
	(実利用者数)	5,163,226	1.2%	5,109,838	1.2%	-1.0%

訪問率 *2	22.0%	20.9%	-4.9%
訪日外客数全体 *3	23,468,719	24,417,820	4.0%

[推計利用者数]

*1 推計実利用者数：当該国立公園を訪れた実際の利用者数の人数。1人の利用者が同一公園内の複数地点を利用しても1人と数える。また、合計（各公園計）は、1人の利用者が2つの公園に訪れると2人と数え、合計（実利用者数）は、1人の利用者が複数の公園を訪れても1人と数える。

*2 訪問率：訪日外客数全体に占める国立公園を訪れた訪日外国人（合計（実利用者数））の割合

*3 訪日外客数全体：出典：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

※本推計値は、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の調査票情報を利用し、推計したもの。「訪日外国人消費動向調査」は、国籍・地域や出国港毎に回収目標数の抽出率が異なるため、母集団構成に合わせることを目的として国籍・地域別および出国港別ウェイトバック集計を行った（日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」ならびに法務省「出入国管理統計」の単純出国者数をウェイトとして使用）。